

カラ	—	■愛知学院大学		
巻頭言	●	……		10
特別読物	●	足るを知る	黒田	12
学園めぐり	●	愛知学院大学と建学の精神	小出	18
	●	仏教よりみた日中文化交流	鎌田	20
	●	仏教は誰のもの―国際仏教交流センターの確立―	引田	27
	●	アジアの仏教―留学僧座談会―	弘道	37
追悼	●	伊藤三毘庵先生追悼	東郷	51
特集・お袈裟	●	曹洞宗の「服制規定」	川口	52
	●	「お袈裟功德」巻撰述の真意	水野弥穂子	77
	●	糞掃衣	山田	96
	●	母親の一念	池沢	102
カラ	—	■母親の一念 糞掃衣		105
	●	お袈裟の意義、現状、その将来	東	109
	●	ソムデット就任祝う祝賀会	隆真	126
カラ	—	■ワットパクナム住職がソムデットに		129
	●	横浜善光寺留学僧育英会・第十回総会を開催、育英生七人に辞令交付		133
	●	第12回育英生の論文(要旨)		141
旅行記	●	ロンドン・ケンブリッジ・パリ 宗教文化の旅	阿部	149
	●	『ダナ・パーラミター』	遠藤	160
	●	育英生論文集の第二集を発行 論文集発刊に寄せて	博因	163
読者のための		留学育英生からのための	題字・イラスト	175
			伊藤三喜庵	

卷 頭 言

此の夏は、雨期に降水量が少なく、一時は水不足が心配されました。その大きな原因の一つに環境破壊が考えられるのではないかと思われます。人類共通の財産でもある地球をもつともつと優しく、大切にしてゆかなければならない。そのため、我々は地球環境保全に積極的に取り組まねばなりません。

環境破壊は、全て人々の日常の暮しの生活の中から生まれるものであります。その点を大いに反省して二十一世紀を眼前にしてその保全に世界の人々と共に国際協力をもつて推進してゆくべきです。

永平寺正門には、熊澤禅師の筆による『杓底の一残水、流れを汲む千億人』の句があります。多くの人々の心と身の渴きをいやしてくれる一滴の水をも無駄にせず、自然界の恵みに感謝して生きたいと思ひます。

『成寿』創刊以来表紙、文中のカット等、お書き下さった伊藤二喜庵先生が、

二月に逝去されました。

先生は至誠を以つて衆機を導かれ、心力を以つて万事を処され、建築界の重鎮でありました。又、日本南画界にあつては、新しい南画の開拓者として作風創意の工夫は誠に多くの方々より高い評価を受けました。先生に厚く御礼を申し上げますと同時に心よりご冥福をお祈り申し上げます。

今回は、名古屋の愛知学院大学とお袈裟の特集にいたしました。

愛知学院大学は、曹洞宗の僧侶・教師の養成機関として、『行学一体、報恩感謝』の建学精神で、人格の形成に日々精進し、東の駒澤大学、西の愛知学院大学と称されている名門校であります。

又、お袈裟は我々の僧侶の最も大切なものの一つであります。

——お袈裟は仏様の心であり、仏様のお体であります。——

『大いなる解脱服、無相福田の衣、如来の教えを身につけたてまつり、広く諸々の衆生を渡さん。』

この誓願を心に堅持して仏法興隆・世界平和の為に、精進努力してゆきたい。